

## 社会福祉施設等における非常災害対策計画の点検・見直しガイドラインの概要

## 1 目的

○社会福祉施設等における利用者の安全を確保するため、河川の氾濫や土砂災害に備えた十分な対策を講じることができるよう、社会福祉施設等の設置者が取り組むべき非常災害対策の点検・見直し項目を具体的に示すこと。

## 2 留意点

## ①情報の把握及び避難の判断について

- ・日頃から気象情報や避難情報の把握に努めること。
- ・特に、「避難準備情報」等については、停電等の場合も含めて、入手方法を確認のこと。
- ・「避難準備情報」発令の段階で、避難を開始するなど適切に行動すること。
- ・近年、「想定外」の大規模な災害が発生しているため、過去の経験のみに頼ることなく、早め早めの対応を講じること。

## ②非常災害対策計画の点検・見直しについて

- ・社会福祉施設等は主に下記の項目について非常災害対策計画の点検・見直しを行うこと。

## ③避難訓練等の実施について

- ・非常災害対策計画の点検・見直し後、避難訓練を実施し、その内容を検証すること。
- ・日頃から地域住民とのコミュニケーションを図り、災害発生時の避難誘導における連携、協力を検討すること。

## 3 点検・見直し項目

## ①施設の立地条件、周辺環境

- ・施設周辺で想定される自然災害について、その被害の程度や影響範囲等を確認しておく。

## ②災害発生時の組織体制

- ・指揮命令系統を整備するとともに、職員別の役割分担を明確にしておく。

## ③災害発生時の緊急連絡網、通信手段

- ・市町など関係機関の緊急連絡先を確認し、職員間の情報受伝達系統図を作成しておく。

## ④施設の利用者に関する情報把握

- ・利用者の特性を十分に把握し、服用薬や家族の連絡先など、利用者に関する情報を一覧にして整理し、非常時には持ち出せるようにしておく。

## ⑤災害に関する情報の入手方法

- ・気象情報や避難情報等を迅速かつ確実に入手する方法を確認しておく。

## ⑥災害警戒体制の確立と避難を開始する時期、判断基準

- ・災害の危険性の高まりに応じて職員配備等を強化し、避難準備を整える。
- ・市町からの避難情報や災害の前兆現象等から、避難開始の時期や判断基準を定めておく。

## ⑦避難行動の確認

- ・災害種別に応じて予め避難場所、避難経路及び避難方法を設定し、職員に周知しておく。

## ⑧物資の備蓄、施設・設備の定期点検

- ・ライフライン（水道・電気・ガス）の停止も想定して必要な物資を備蓄しておく。

## ⑨避難訓練の実施、検証

- ・各種災害を想定して実践的な訓練を実施し、結果を検証する。

## ⑩地域の関係機関や住民等との協力体制

- ・災害発生時に近隣住民の協力が得られるよう、日頃から良好な関係を保つ。

※非常災害対策計画（作成例）